

**平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告  
実施概要**

<b>学校名</b>	倉敷市立下津井東小学校	<b>校長名</b>	田中恵美子
<b>所在地</b>	〒711-0925 岡山県倉敷市下津井田之浦 2-4-66		
<b>参加者</b>	4 学年 1 学級 22 名 5 学年 1 学級 30 名	<b>指導 教諭</b>	三宅 巨 教諭 高原 申生 教諭
<b>参加目的</b>	本校は、自分の考えを言葉や文章で表す経験の浅さから、考えを発表したり交流したりすることを苦手としている児童が多いという実態がある。また、全学年単学級のためクラス替えがなく人間関係が固定化する傾向にある。そこで、宇宙連詩をつくる活動を通して、表現力やお互いに認め合う資質を育てることを目的として参加した。		
<b>指導目標</b>	<p>身の回りの出来事や様子、その時々自分の思い、心にとまったことや感動したことなどを、詩として短い言葉で表現することを通して、考えを言葉や文章で表現する力をつける。</p> <p>詩をつなげ、共有する活動を通して、相手意識と共に、学級への所属感や仲間意識などを養う。</p> <p>友達の詩を読んだり味わったりするなど、互いに評価したり推敲しあったりする活動を通して、お互いに認め合う資質を育てる。</p>		
<b>具体的な取り組み内容</b>			
<b>実施時期</b>	<b>取組内容</b>		
12 月	<p>JAXA 協力のもと、宇宙レクチャを実施。(2 コマ (90 分))</p> <p>自分も宇宙の一部であるという自覚を児童から引き出すための、JAXA 職員による講話を頂いた。</p> <p>児童に連詩作りの心構えを持たせることをねらいに、講師の詩人から作品の紹介や詩を書くポイントなどをレクチャー頂いた。</p> <p>事前に児童が書いた第 4 詩を朗読し、講師の詩人からアドバイスを頂いた。</p> <p>講師の詩人から頂いたアドバイスをもとに、再度、第 4 詩を作った。</p> <p>質疑応答、感想の集約</p>		
1~3 月	<p>みんなで作っているという感覚をもたせるため、児童 4 ~ 5 人を 1 グループとし、グループを単位として書く順番を決めた。グループ内では書く順番を決めず、次につながる詩が思い浮かんだ児童から書くこととした。</p> <p>作品を教室の壁に掲示していくことで、友だちの詩をいつでも振り返ることができるようにし、友だちの考えていることや感じていることを、学級の児童全員で共有できる環境とした。</p> <p>4 年生と 5 年生が完成した宇宙連詩を朗読しあい、お互いのよかったところや感じたことなどを発表しあった。</p>		
<b>社会との繋がり</b>			
特になし			

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告  
指導教諭からの報告

宇宙連詩をつくる活動を終えて

倉敷市立下津井東小学校 4 学年指導教諭 三宅 亘

**設定された指導目標の達成度**

・ **指導目標 に関して**

国語や理科などの授業と関連付けながら指導するようこころがけたが、限られた時間の中で宇宙連詩を書く練習をする時間を設定し指導することがあまりできなかった。そのため、語彙を豊富にし、表現力をつけるという面ではあまり大きな成長というものは見られなかった。しかし、宇宙連詩作成中は、自分が普段考えていることや感じていることを詩に表現しようと一生懸命考えたり、「家に帰ってからお風呂の中で考えたらいいのができた！」とうれしそうに話したりする児童が多く見られ、連詩や宇宙についての子どもたちの興味や関心が高まったことに関しては成果があったと思う。

・ **指導目標 に関して**

本学級では、みんなで一つのものを作り上げていくという活動があまりなかった。一人ひとりの詩がつながってひとつの宇宙連詩になるという今回の取り組みは、クラスの仲間意識やお互いに協力し合う姿勢を高めるといって大きな成果を上げることができたと感じている。児童の感想にも友達の商品に関することや、学級で一つのものを作りあげた達成感等について多く書かれていた。

・ **指導目標 に関して**

お互いに認め合う姿も多く見られた。みんなの作品をクラスに掲示して、お互いにいつでも見合える環境で、子どもたちは「 さんのおもしろいなあ」「うまくボンととべたね」など児童同士の会話が自然に聞こえてきた。特に教師が声をかけたわけではないが、友達の言葉一つひとつを意識し、詩を作っている友達の回りに輪ができ、推敲し合っている光景がとてもほほえましかった。

**教育ツールとしての宇宙連詩が持つ可能性**

今回の活動を通して何より感じたのは、みんなの詩をつなげて一つの連詩を完成させるということが学級経営に大きく役に立つということだ。また国語や理科や道徳などの教科とも関連付けて指導できれば、理解をより深めることができると思う。

**今後の期待・アドバイス等**

児童の感想として、次に宇宙連詩をつくるとしたら1年間をかけてゆっくりとみんなで作っていききたいというものが多くあった。自分自身も、年間を通じて、いろいろな行事の中で感じたことや思ったことを詩に表現していく活動ができれば、より深く多様な詩ができあがっていくのではと感じた。年度の早いうちから取り組むことができれば、宇宙連詩はさらに大きな効果を生むものと考えられる。

## 宇宙連詩をつくる活動を終えて

倉敷市立下津井東小学校 5学年指導教諭 高原申生

### 設定された指導目標の達成度

#### ・ 指導目標 に関して

宇宙連詩を書くにあたり、特別に時間を設定し指導することがあまりできなかった。そのため、表現力という部分では大きな成長というものが見えなかった。しかし、宇宙連詩作成後に書いた児童の感想には、自分の考えや思い、感じていることを詩に表現することが楽しいと書かれていた。考えを言葉や文章で表現する力については成果としてあまり見えなかったが、興味や関心を引き出せたことは大きな収穫である。

#### ・ 指導目標 に関して

指導目標 に関しては、大きな成果を上げることができたと感じている。児童の感想には、他者への理解に関することや、学級として一つのものを作った達成感や協同感について多く書かれていた。本学級の児童は、1年間を通して人との付き合い方の部分で大きく成長したと感じている。その理由の一つとして、みんなで一つの宇宙連詩をつくる活動があったと考えられる。

#### ・ 指導目標 に関して

指導目標 に関しても成果があったと考える。特別に推敲したり感想を述べ合ったりする時間をもつことはあまりできなかったが、休憩時間に詩を書いている児童の回りに友だちが集まり、「これいいなあ。」や「ここはこうしたほうがいいんじゃない。」などの会話をする様子がよく見られた。みんなの詩をつなげて一つの連詩をつくるという活動の特性から、よいところを認め合ったり推敲しあったりする行動が自然に子どもたちの中に生まれたものと考えられる。

### 教育ツールとしての宇宙連詩が持つ可能性

みんなの詩をつなげて一つの連詩を完成させるという特性や、詩を通じて他者への理解を深めることができたということから、国語教育だけではなく道徳教育や学級経営にも大きな意味をもつと感じた。

### 今後の期待・アドバイス等

今回参加した児童の感想として、次に宇宙連詩をつくるとしたら1年間をかけてゆっくりとみんなで作りたいというものがあった。私自身も、年間を通じて児童がゆっくりじっくりと、その時々のある出来事や思いを詩にしていく活動ができれば、より効果を深めることができると感じた。年度の早いうちから始められるようにすれば、宇宙連詩はさらに大きな効果を生むものと考えられる。

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告  
参加者からの報告

感想 1 ( 4 学年 伊藤朋和 )

最初は宇宙連詩をどう書けばいいか分からなかったけど、やり方が分かってくるとおもしろくなってきました。ぼくの書いた詩が、宇宙に 10 年間も飛び続けるなんて、めったにないことだからとてもうれしいです。無事にロケットが飛んでほしいです。

感想 2 ( 4 学年 小川真由華 )

宇宙連詩をやると先生から言われたとき、私は宇宙連詩って何だろうと思いました。最初は意味がよく分からなかったけれど、だんだんとやっていくうちに宇宙連詩のおもしろさが分かってきました。教室に掲示してあって、友達の書いた詩を読むことができるし、自分の詩から友だちがどのようにつなげていったのかが分かるのでおもしろかったです。

感想 3 ( 5 学年 山本祐輔 )

宇宙連詩を書いていくうちに、宇宙に関する詩から、今がんばっていることや未来のことなどいろいろな内容に変わっていくところがおもしろかったです。友だちの詩も、いろいろな工夫がしてあっておもしろかったです。また、来年もやってみたいです。

感想 4 ( 5 学年 金本驍 )

宇宙連詩を書くのは難しかったです。自分のことや自分の気持ちを表すのに苦労しました。でも、できたときにはとてもうれしかったです。ぼくたちの書いた詩が宇宙を飛ぶ日がとても楽しみです。夜になったら、衛星を探してみようと思います。

感想 5 ( 5 学年 吉田壘 )

宇宙連詩をやってみて、いろいろなことを思いました。今の気持ちを書き表すことでなんだかスッキリしたし、何より JAXA のことを身近に感じられるようになりました。宇宙連詩をやった本当によかったです。

感想 6 ( 5 学年 谷本有未 )

宇宙連詩をしてみて、宇宙のことをもっと知ってみたくなりました。いろいろな個性が出て、みんないい詩うい書くことができたと思います。私は、みんなで詩を書いているということがとてもうれしかったです。みんなが協力して、いい宇宙連詩ができたと思います。

## 宇宙連詩アンケート（４年生、５年生）

Q1 宇宙連詩に参加する「以前」に、「JAXA」や「きぼう」を知っていましたか？  
たとえば、「私は、JAXAの　　です」とか、「私は、『きぼう』に関係した仕事をしています」と言われたとき、ピンとききましたか？

「はい」と答えた方  
5年生 4名/30名  
4年生 4名/22名

Q2 宇宙連詩に参加して、JAXA や「きぼう」が、身近に感じられるようになりましたか？

「はい」と答えた方  
5年生 20名/30名  
4年生 19名/22名

Q3 来年も、みんなで宇宙連詩を作りたいですか？

「はい」と答えた方  
5年生 20名/30名  
4年生 18名/22名

Q4 その理由は何ですか？（簡条書きで結構です。）

- ・ 人の目標や好きなこと、どんなふうに思っているかなどを知ることができていいし、キーワードを決めるときにどんなところが前の人と共通しているかを知ることができるから。
- ・ 自分の書いた詩から、友だちがどのようにつなげていくのかを見るのが楽しかった。
- ・ 今年のように短い期間ではなくて、みんなでゆっくり宇宙連詩を作って宇宙へ飛ばしたいから。
- ・ 今年は急いでやったので、あまり考えられなかったけど、また来年できるなら、ゆっくり考えて、みんなでとてもいい作品にできたらいいと思うから。
- ・ みんなが考えていることを詩にして、それをつなげて1つのものとなるところがいいので、またやりたいと思いました。何年後かに、みんなで書いたものが見ることができたりするといい思い出になるので、来年もやりたいと思いました。
- ・ どんな詩ができるか楽しみだから。
- ・ 完成したらうれしいから。
- ・ いろんな言葉を使うからおもしろい。
- ・ 自分たちの詩が宇宙に行くことはすごいことだし、クラス全員で詩をつなげて連詩にするのが楽しかったから。
- ・ 詩を考えるのが楽しかったから。
- ・ みんなの書く詩をまた見たいと思ったから。
- ・ 自慢できるようなすばらしいことだから。
- ・ いい記念になるから。
- ・ 10年間、空に上がっていていい思い出になるから。
- ・ 大人になったときに、その頃のことが分かりそうだから。
- ・ 詩がつながってくるうちに、楽しくなってきたから。
- ・ 友だちの詩にどうやって続けて書くかを考えるのがおもしろかった。

- ・ 来年は、もっといい宇宙連詩ができそうだから。
- ・ みんなの思い出をまた作れるから。
- ・ 友だちの考えていることや感じていることが詩に出ていて、その人のことが分かるから。
- ・ 詩を書いて、自分のことが分かってきて楽しかったから。